はいこんちょ！

教育長のつぶやき
No.32
2023，5／26

小中一貫校視察

昨日は、13 名のメンバーで長野市立鬼無里小中学校に視察に行ってきました。往復のバスの中は和気あいあいとした雰囲気で笑いが何度も起きるほど明るい雰囲気でした。今後の話し合いにとってもこうしたコミュニケーションはとても大切な機会だと感じました。20 名の募集定員に対し、定員を下回りましたが、参加された皆さんが、参加できなかった皆さんに報告を上手にされることだと期待します。

さて、初回は校舎併設（一体）型小中一貫校の学校でした。H28 年に生じた白馬の神代断層地震により中学校の校舎が使用できなくなり、小学校の校舎を使用することになり、その際に住民による話し合いが進み、校舎一体型の小中一貫校という結論に至りました。現在は小学生 20 名、中学生 10 名の合計 30 名の児童・生徒数ですから数の面では統合は望ましい結論だったと思います。小学校は 2 学年の複式授業。中学校も教科により複式の授業を実施していました。「わたり」と呼ばれる複式授業形態で実施し、一人の教師が、2 学年別々に一つの教室で指導するという方法です。片方に練習問題を行わせ、別の学年で式や解き方の説明を行う、それが終わるとまた逆という方法である程度、説明と問題を解く時間を見計らい、教師が互いを移動することから「わたり」方式と呼ばれています。

中学校の社会科では１・２年生が一緒に歴史の授業を行っていましたが、中学校の場合地理、歴史、公民が学年で指定されていないため、１・2 年生で大体地理と歴史を行うので、１、２年生であればこうした複式も可能だと見させてもらいました。

鬼無里小中は男女数にもかなり差があり男子は 20 名、女子はその半分の 10 名です。中学に至っては女子は 2 名しかいませんが、男女ともに大変仲の良い学校でした。活動になると男女が別れるようなことはあまり見られませんでした。

小規模特認校の許可を取っているので学区外からの通学も可能です。1 名が長野市 H からの通学者だといいます。祖母が毎日仕事で鬼無里に通勤しているので、送り迎えの心配はないようです。聞くとこのお子さんも、大きな学校に違和感を感じ、この学校に来るようになったとのことですし、鬼無里での授業も出にくい授業があるということでした。たまたま保健室にいたので少し話をすることもできました。

つい先週末、私も栄小中の授業を見させていただいたばかりなので比較しながら見ましたが、当村の学校はだいぶ授業改善をしようとする気持ちが見えましたが、鬼無里は授業スタイルが今まで通りで先生が「教える」という感覚が中心の授業でした。先生対子どものやり取りが中心で子ども対子どもや、子どもにとっての課題解決の必要性、単なる形だけの複式授業による異年齢集団の学びではなく、異年齢集団で学ぶ良さを生かした学びにつながって行く必要があることも感じさせてもらいました。

小中一貫教育の良さも教えていただきながら、また次の大町市 3 校の視察時の比較に役立つものになりました。質疑の折に参加された村民の方々からいくつか質問が投げかけられましたが、大変質の高い質問であり、昨年度からの話し合いがこうした質疑の機会にも生きていることを実感して帰ってきました。学校すぐ近くの有名な「いろは堂」にておやきを食べたり、購入したりしてから栄村に戻ってきました。これも視察の良さですね。